



特集

安定的な財源の確保に取り組むクラブ



まる倶楽部 ＜神奈川県横浜市＞



日本体育協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、事業受託・会費の設定を工夫するなど、財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。



1. 受益者負担の観点で参加費を100円から300円に値上げ
2. 5年間の市体協補助金を初期整備費として活用
3. 10年後を見据えた運営で指導者不足を解消
4. 地域に眠っているハイレベル経験者を登用

1 クラブ概要

平成16年10月、横浜市神奈川区片倉地区において、体育指導委員、青少年指導員、スポーツ団体代表者、スポーツ指導者等が中心となって地域における生涯スポーツについての話し合いが行われました。地域スポーツ環境における多くの課題等について話し合いを重ね、次第に話題の多くは、多世代、多種目、多趣向で地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの話題が中心となっていきました。その後、「できることを楽しくやろう」と、横浜市中丸小学校学校開放運営委員会が中心となり、2年間横浜市教育委員会の学校開放活性化事業を通じて様々なイベント等を仕掛け、平成18年から総合型地域スポーツクラブの設立を目標に地域住民へのクラブの周知やスポーツ体験教室、体験イベント等が開催されました。



平成21年2月までに徐々にクラブの目的や活動内容も地域に浸透し、クラブ運営体制も整ってきたため、同年3月設立となりました。「地域のため」を最優先事項として活動を行い、平成28年度には、年間41種目（703回）の教室、4つ（15回）の主催イベント等を実施し、教室・イベントには23,000を超える人々が参加しています。

2 運営委、小学校、PTA三者で連携→学校開放事業が発展

横浜市学校開放事業を20年前からクラブ関係者が実施していたこともあり、学校開放を行っていた中丸小学校とはクラブ設立前からつながりがありました。クラブ設立前から、小学校の体験学習のための事前学習として、カヤック体験をプールで行うなど、現クラブ会長が小学校との信頼関係を築き、学校側も活動に対して協力的な雰囲気がありました。また、クラブ設立時には、現会長が小学校のPTA会長に就任していたこともあり、学校開放運営委・小学校・PTAの三者が連携を図ることもできました。現在では、学校からはクラブの活動に対し様々な協力を得ています。

【学校からの主な協力内容】

- 印刷機の使用（インクや紙はクラブ準備）
- 体育館内の一室をクラブ事務局として利用
- 体育館の倉庫の一部をクラブの用具置き場として使用、体育館近くに用具倉庫を設置
- クラブの活動への教員の参加（参加者として参加）

3 「地域全員を対象」との理念から会費ではなく参加費を選択

クラブ設立時から、「地域のため」のクラブであるため、会員として一部住民を囲うような形をとらずに、「地域全員を対象とする」考えのもと、会費という制度ではなく、参加費を払えば参加できるという形式をとっています。

現在は、参加の意思を示すため、また、受益者負担の考えから、一つのプログラムの参加につき、参加費は一人300円としています。クラブ設立当初は参加費を100円としていましたが、クラブ運営全体を考え、参加者の負担になりすぎない金額ということで300円に値上げを行い、現在に至っております。



4 謝金（支出の57%）を参加費で賄う 保護者・学校との対話を重視

設立から5年間は、横浜市体育協会の補助金を受けていましたが、その補助金を受けている当時から補助終了後を見据えて活動をしていました。そのため補助金では、運営拠点整備や活動のための初期整備費としてスポーツ用具、冷蔵庫、製氷機等を購入しました。

現在では、クラブ全体の支出のうち謝金が57%（教室指導謝金約42%、運営人件費約14%）を占めていますが、教室やイベントの参加費のみで賄うことができます。なお、指導者謝金はコアになる指導者にのみ渡すことしかできていないというのが現状です。

参加者を集めることがクラブの収入にもつながるため、参加者をいかに集めるかということにも重点を置いています。現在は、地区の小学生・中学生のほか、20代から40代の方々が多くクラブの活動に参加しています。ただ、地域を大切にしている当クラブとしては、まずは当該地域の住民が参加できることが第一と考え、大々的な広報は行っておりません。広報等の大きな仕掛けを行っているわけではありませんが、参加者のニーズを取り入れ、クラブ運営に生かすために活動中の保護者との対話や学校との対話を重視しています。保護者との対話では、将来的にどのような子どもに育てほしいかの希望等、学校側とは学校が持つ課題等を聞き、その課題解決に向けたお手伝いができるような事項があれば、クラブの活動に取り入れる等の取り組みを心がけています。

また、運営側としても、クラブが提供するサービスの質が良ければ、人が集まるということを意識し、「人が人を呼ぶクラブづくり」を目指しています。

5 人とのつながりを重視 協力者を集めクラブ活性化

クラブでは人とのつながりを重視し、設立時から、今後10年間を見据えてクラブ運営を行っています。例えば、設立時の小学生の参加者に対しては、10年後の大学生になったときにクラブに参加者や指導者として戻ってきてもらえるように考えていました。現在では、チアダンス教室において、クラブの教室に参加していた小学生が大学生になり、友だちを連れてクラブに参加するようになり、その友だちが指導するというように、つながりが大きくなっています。

参加者がお客さんという立場でなく、自分のクラブという意識を持てるようなクラブの活動を目指した結果、指導者としてもクラブの活動に参加してくれる人が増え、指導者不足も解消されました。クラブには、20代～40代の参加者が多くいます。その世代の参加者は、大人を対象とした教室に参加して、自身もスポーツを楽しみつつ、子どもを対象とした教室の指導者がいない場合には、指導者としてもクラブの活動に参加いただいているほか、クラブに要望があったクラブ外部のイベントにおいても指導者として活躍いただいています。



また、過去に全国大会や国際大会に出場した経験のある方が、実は地域には眠っています。そのような方々にもクラブの存在を知ってもらい、積極的にクラブ活動に参加いただいています。クラブに関わる人が増えることは、刺激になるだけでなく新しい視点等を取り入れることができるため、経験者の登用を重視しています。

学校との連携という点では、小学校・中学校・大学とは既に連携を取っており、特に大学との連携においては現会長がクラブ運営に関する講義を大学で行ったり、クラブで学生を受け入れています。大学生がクラブに関わることによって、クラブ運営に大学生の発想を反映することができ、刺激にもなっています。

このほか、クラブ運営スタッフも様々な団体が行う研修に参加し、指導や運営に関して情報を収集するようにしています。そして、クラブでは常に同じことを行うのではなく、新しいことを取り入れるようにしています。

6 今後の課題

「今、何ができて何が必要か」を語れる人を増やすことがクラブの課題です。平成30年にクラブ設立10年を迎えることもあり、現在、今後のクラブ運営について検討しています。その検討事項の中には、クラブの法人化や現在クラブが行っている教室をチーム化することなども含まれています。

まずは、今後10年のビジョンを持ち、慌てずに目の前のことに取り組み、人とのつながりをつくりながら、参加者のニーズを捉え、提供していきたいと考えています。

(まる倶楽部 会長 貝川 弘行)



クラブ プロフィール

設立年月日 平成21年3月20日

所在地 神奈川県横浜市神奈川区

運 営 会員数1,181名（平成29年3月現在）

予算規模 200万円(平成29年度)

有給職員 6名

特 徴 大きな特徴としては、学校、地域連携型のクラブです。学校内に事務所を持ち、学校行事、特別活動の補助をしたり、連合会町内会レベルの地域連携にも力を入れています。学校開放事業をもとに、クラブづくりをしたので、中学校区を基盤としての広がりがあります。学校の特別活動にも週5日と積極参加をさせていただいています。近隣スポーツセンター、地区センター事業とも連携し、より多くの地域の方々へ活動を提供しています。また、市の施策「放課後キッズクラブ」との連携も多く取り入れ、共同事業を展開しています。独自の教室展開も多岐にわたり、昨年も41種目を提供しました。0歳～90歳までの参加者、障がいを持つ方々への環境提供も5年目となりました。
みんなでつくる、みんなのクラブ！

連絡先 〒221-0801 横浜市神奈川区神大寺3-17-1 中丸小学校内
電話番号 045-481-0890
E-Mail staff@maruclub.net
URL <http://maruclub.net>

